



川西町フレンドリープラザ

since 1994

劇場・川西町立図書館・遅筆堂文庫

2022年冬 No.74

PLA's



<https://www.kawanishi-fplaza.com>



遅筆堂文庫展



川西町立図書館
企画・運営

特集

知っているようで、
本当は知らない図書館の世界

PLANNING

子ども演劇の今・朗読倶楽部「星座」

Waku Waku エッセイ

佐藤 広一

世界初、『紅花』の長編ドキュメンタリー映画が完成!

《コラム》

私のお気に入り ~My favorite things~

知っているようで、
本当は知らない図書館の世界

川西町立図書館・遅筆堂文庫は公立図書館なのに、
ちよっと他の図書館とは違う!?

県立や市町村立の図書館は全国に3000館あまりあります。公立図書館は、みんなにとって身近で使やすく、気軽に利用できるよささまざまな本をとりそろえ、共通のしくみで運営しています。小説やエッセイ、幼児向けの本、仕事や家事、育児、介護など生活全般に参考になる本、歴史や地理、美術や音楽、郷土に関わる本など、各年代層に対応できるように幅広く収集しています。

公立図書館は全国共通のしくみを持っています。たとえば、本の分類。一冊の本には全国どこでも同じ番号がついています。日本の小説はNDC(日本十進分類法)で「913」に分類されます。その番号の下に著者の名字の二音がカタカナで書かれています。井上ひさしなら「913・イ」の棚に入ります。

遅筆堂文庫の分類は違う!?

井上ひさしから寄贈を受けて誕生した遅筆堂文庫も公立図書館です。でも、文庫の図書分類は特殊で、アルファベット26文字を使って、井上ひさしの頭の中で分類されていたように並べられています。Aは言語、Bは江戸、Cは地図、Dは演劇...といった具合です。

つまりプラザの図書館は、井上ひさしの蔵書を収めた専門的図書館である遅筆堂文庫(1階)と、公共図書館である町立図書館(2階)がいっしょになっている「世にもふしぎな(?)公立図書館なのです。町立図書館の本と特殊分類された遅筆堂文庫の本が、同時にカウンターにさしだされても、一つのパソコンの端末で瞬時に読み取り、貸出処理ができるという離れ業(はなれわざ)図書館システムができる図書館です。

月曜日は
休館で〜!



図書館の意外と知らないサービス!

図書館は読みたい本を読むところ、借りるところ。では他にどんなサービスをしているのでしょうか。「読み聞かせをするにはどんな絵本がよいか」という相談や、「こんなことを知りたいのだがどの本に書いてあるのかわからない」という問いに、司書がこたえてくれます。「知りたいこと」によりそい、それに近い答えが入っている本を見つけてくれるところでもあります。

司書の
ある日の仕事
《スタート》

ブックポストの返却本をすばやく棚にもどすよ!

◎開館の準備(館内清掃)
コロナ禍になってからは、館内の換気と机・イス等のアルコール除菌に加え返却本の除菌もしています。

開館
9:30

◎新聞各紙の記事チェック
「川西町」と「井上ひさし」に関する記事はコピーし、ファイリングしています。



選書会議は
月に1~2回
行ってます。

◎選書・発注
図書館では月に約100冊(寄贈本も含む)の新しい本を受入れています。図書館専用のカタログから、本の分類ごとに担当職員がバランスや利用者のニーズを考え選んでいます。

熟者に熟考を重ね
よりよい選書を
心がけてます!



ていねいに、慎重に、
キレイな状態で
みなさまに
届けます。

◎整備・書誌・所蔵入力
届いた本を図書館に並べるために、バーコードの登録や貼付け、透明フィルム貼りなどをすべて手作業で行っています。



書架整理は
体力勝負の
作業です。

◎配架、書架整理
年に一度蔵書点検を行います。点検後、処分する本の登録解除などを行い役目を終えた本を処分場へとお渡します。



◎レファレンス対応
お探しの本のご相談や読書案内などを行っています。お気軽にご相談ください。

今日も1日
お疲れさまでした!
《ゴール》

閉館
18:00(冬時間)
※夏時間19:00



まだまだある、図書館サービス!

ぜひ活用してみ
てくださいね~!



蔵書検索システム

川西町フレンドリープラザのホームページには、パソコンやスマートフォンから図書館の本を検索や予約できる「蔵書検索システム」があります。貸出可能かどうかも確認することができます。
※予約には利用者カードとパスワードが必要です。
<https://ilisod002.apsel.jp/friendlyplaza/>



予約サービス

読みたい本が貸し出し中の場合、《予約》ができますので、カウンターにお申し出ください。返却され次第ご連絡いたします。
※書名はご本人のみにお知らせします。
※予約された本の取り置き期間は連絡を差し上げた日から1週間です。
(予約は、貸し出されている本に限ります)



団体貸出

10人以上の団体であれば、50冊程度の本を1か月間借りる事ができます。
※団体の登録についてはカウンターでご相談ください。
※小学校や学童、その他各施設の読みきかせサークルなどにご利用いただいています。



他の図書館から借りる

探している本がなくても、その本を持っている県立図書館や周辺の公立図書館から取り寄せることができます。そして川西町立図書館で受取、返却することができます。これを《相互貸借》といいます。図書館同士のつながりを活かした便利なサービスです。ぜひご利用ください。

ちょっとスライクだワシ!

最近、司書たちの間で話題になった本を紹介します

おもしろい問い合わせに図書館司書が一所懸命
答えてくれた問答集が出版。



『福井県立図書館 100万回死んだねこ一覚え違いタイトル集』(講談社刊2021.10)

『福井県立図書館 100万回死んだねこ一覚え違いタイトル集』(講談社刊2021.10)
Q「カフカの『ヘンタイ』を借りたいんですが…」 A「『変身』ですね。」
Qドラマ化した『私、残業しません』って本ありますか?... A「わたし、定時で帰ります。』ですね。」
Q『そのへんの石』ってありますか?..... A「『路傍の石』のことでしょうか。」
これは図書館のカウンターでやりとりされた会話や楽しい問答がたくさん掲載されています。

そういえば... 井上ひさし著『吉里吉里人=きりきりじん』を
『こりこりじん、と言った人がいたとか。』



川西町フレンドリープラザ附属
子ども演劇教室
3月の公演に向けて
気持ちを新たに

昨年もコロナ禍が続き、定期公演が延期になるなど、子ども演劇教室の活動にも大きな影響が出ました。このような状況でも子どもたちは元気に、そして力強く稽古に励み、11月に行われた定期公演を成功させました。この公演を最後にこれまで年下のメンバーをひっぱってきた中学3年生が引退することになり、新たなスタートを切ることとなります。頼もしい先輩の背中を見てきた子どもたちは、きっとすばらしい活躍を見せてくれると信じています。

3月の公演では、前回の演目の配役を変えてお芝居を披露します。現メンバーによる磨きがかかった姿をぜひご覧ください。



子ども演劇定期公演
「さざわぐち山と仲間の話」
2022年3月20日(日)14時開演

朗読倶楽部「星座」
きりきりき
第8回 吉里吉里忌
オープニングアクトは
『あくる朝の蟬』

昨年12月12日に第5回定期公演『午後の朗読会vol.5』を終えた朗読倶楽部「星座」。翌週からは第8回吉里吉里忌オープニングアクトに向け、井上ひさし作『あくる朝の蟬』の稽古が始まりました。同作品は郷里(旧小松町)を舞台にした井上ひさしの自伝的小説です。2019年開催の第5回吉里吉里忌オープニングでは『イーハトーボの劇列車』を披露、今回の出演は2回目です。吉里吉里忌での舞台は、単独公演とは異なる独特の雰囲気と緊張感があります。オープニングという重要な場面。20分という短い時間。会場には井上ひさしを偲ぶために全国各地から訪れる大勢の来場者。その中で作品を朗読することは、むずかしさもありますが、貴重な機会。本番に向け、稽古を重ねてまいります。

第8回 吉里吉里忌
2022年4月10日(日)13:30~16:00
《料金》1,500円(税込)※18歳以下無料



「大人の夜の図書館」は、閉館後の図書館を利用して、さまざまな分野で活躍している人、得意なテーマでお話できる人を招きトークを楽しむという企画で、5年前から始めました。お話をされる方は町内外さまざま。内容も多種多様です。その知識の深さに毎回驚かされます。昨年は、「大人の夜のブックトーク」から始まり、「DVD鑑賞会」「トレッキング」「ハーブ」「フラワーアレンジメント」「星座」について6回開催。会場は夜の図書館。この時間は、別世界へ行ったような不思議な感覚になります。その感覚は本を読んでいる時と似ています。参加者のみなさまには大変好評。ぜひ第二弾を、「別のテーマの話も聞いてみたい」という感想が寄せられます。とてもありがたい担当者としては、うれしい限りです。「夜の図書館」を通して、図書館を身近に感じてほしい、親しんでいただけるよう続けていきたいと思っています。(司書・小関)



大人の夜の
夜の図書館

夜の図書館は「別世界」へと連れて行ってくれる時間

「大人の夜の図書館」は、閉館後の図書館を利用して、さまざまな分野で活躍している人、得意なテーマでお話できる人を招きトークを楽しむという企画で、5年前から始めました。お話をされる方は町内外さまざま。内容も多種多様です。その知識の深さに毎回驚かされます。昨年は、「大人の夜のブックトーク」から始まり、「DVD鑑賞会」「トレッキング」「ハーブ」「フラワーアレンジメント」「星座」について6回開催。



子どもたちの読書の入り口
ブックトーク

大人が楽しむ姿を見せる

町立図書館では、町内6つの小学校で年間20回から25回程度ブックトークを行っています。ブックトークとは、「冒険」や「家族」など、テーマに沿った本をあらかじめ紹介していく取り組み。児童の読書意欲を高めることを目的としています。今年度は7月から12月まで24回のブックトークを行い、1350冊の本を貸し出しました。私がフレンドリープラザでお世話になってから今年で6年目。1年生の時に会った子どもたちは6年生になりました。小学校に行くとき手をふったり、声をかけてくれたりする子もいて、この仕事をしていたてよかったと思う瞬間です。

ブックトークを担当してまもないころは、きちんと要約したあらすじを正確に伝えていけば子どもたちに楽しんでもらえると考えていました。しかし、実際に子どもたちと接するうちに、正確に物語の内容を伝えるよりも、「コミュニケーションを取りながら、いかにこの本がおもしろいのかを伝えていくほうが楽しんでもらえること」がつかまりました。読み聞かせでも読書でも、まず大人が楽しんでる姿を見せることが子どもにも興味を持ってもらううえで大切なのだと思います。これからは児童書担当として、子どもたち以上に楽しみながら仕事に取り組んでいきたいです。(司書・安達)



写真提供：玉庭小学校

(写真右：紙芝居ボランティアの佐藤満徳さん)



世界初、『紅花』の 長編ドキュメンタリー映画が完成!

佐藤 広一

生まれてこのかた退屈をしたことがない。「いやあ暇でしようがないからなんかあります?」と言ったこともない。かといって多趣味なわけでもない。好きなことは本と映画、以上。しかしこれがかくせ者で、日々面白そうなお話は出版され、映画は年間1,300本近く公開される。ハッキリ言って消化できない、できるわけがない。にもかかわらず、連日ムダな抵抗を試みている。

本は常に20冊ほど同時進行で読んでおり、しかし合わない本は敬遠され、一定期間放置されたのちお蔵入りとなる。最後まで読み通せる本は4冊に1冊といたところなので勿体ないのである。映画もまた右に同じである。プライベートはひたすらインプット作業となるので、必然的に仕事アウトプットの作業となる。映像制作をなりわいに行っている(ありがたいことです)。プロモーションビデオやテレビ番組、CMもさることながら、ライフワークとして続けていることに映画制作がある。

2017年に、酒田大火の火元となった伝説の映画館、グリーン・ハウスを描いたドキュ



夢を叶えた「大人の遊び」

峰田 順一

私は、一昨年11月、山辺町に「新館(はなしごや)」という交流の場をつくった。「ホームと宿泊が一緒になった大人の遊び館」というコンセプトで構想、オープンから1年ちょっとになる。建物が完成し、すぐさま運営と、これまで全ての時間をここに集中してきたといつてもいい。

だから、今までの私が好きなものは、どこかに置いてきてしまったと思ひ込んでいた。でも待てよ、いま自分がやっていることは長年思いついてきたこと、これって私の一番のお気に入りってことか?

もう40年以上前、東京での大学時代、私は落語研究会なるものに所属していた。落語会をはじめさまざまな生の舞台を気軽に楽しめる環境が身近にあった。それだけに、就職で故郷に戻った時の反動は大きかった。その時の

メンタリー映画「世界」と言われた映画館」を発表ののち、昨年2021年は、「丸八やたら漬 Komian」と「紅花の守人」の2本が完成した。

「紅花の守人」に至っては撮影に4年の歳月をかけて、紅花染めの文化と技術を取材するために京都、大阪、奈良にも遠征した。とはいえ山形でも染めの技術は息づいており、そのひとつに米沢の織物製造業、株式会社新田の新田克比古さんと翠さんご夫妻の寒染めがある。昨年2月にその様子を何度も通って撮影させていただき、映画本編にしっかりと記録させてもらった。

「紅花」は山形県人にとって身近な花ではあるものの、知っているようで意外と知らない存在ではないだろうか。かく言う私もそのひとり、撮影するまではそのほとんどこのことを知らなかった。むしろ知った気だけである。

なので、「紅花の守人」はその入門編になるような作品にしたい、と作りながら考えていた。教育映画にはしたくなかったので、むしろエンターテインメントとして、明るく軽やかに、そして奥深さを併せ持つ作品を目指した。

編集作業の最後に、音楽やナレーション入りをこなすポストプロダクションというものがあ

る。昨年はスタジオジブリ作品「おもひでぽろぽろ」が公開から30年という記念的節目の

残念な気持ちだが、地域にこだわり、ごんままりとした会場で、生の落語・演奏・芝居・映画を楽しむみたいという思いにつながったのかもしれない。今、それが実現している。

新館は、古の山辺城二の丸跡、とにかく眺めがいい。ここで一人酒を飲みながら、山形市街の夜景を望み、これからの企画に思いを馳せる。そして、自分の思い入れがある催しが終わった後は、またグラスを傾け二人打ち上げ、余韻に浸る。

「What's your favorite thing?」と聞かれたら、躊躇なく答えることにしよう。「My favorite thing is 新館」と。(山辺町)



雑草との日々

塩野 天晴

もともと好きで始めた訳ではない。仕方なく、だ。草取りなんて。

荒れ放題だった庭の雑草取りに手をかけた要因はいろいろある。庭に面した道路の交通量が増加して見過ごせなくなったこと。コロナ

年であった。ならば当時、タエ子の声を演じた歌手で女優の今井美樹さんにナレーションをお願いできないものだろうか、オフアールしたところ快諾してくださった。

劇中で使用した、「紅花摘み唄」「最上川舟歌」は山形県が誇る歌姫・朝倉さやさんが担当してくださり、既定のドキュメンタリー作品という概念から大きく羽ばたいたものになったと思う。置賜では、雪解けを待ちながら春ごろに上映会が開けたらと考えておりますので、そのときはぜひご覧ください!

佐藤 広一 (さとう こういち) 映画監督

1977年山形県出身。1998年、第20回東京ビデオフェスティバル(日本ビクター主催)にて、短編映画「たなご日和」でゴールド賞を受賞。監督作に「隠し砦の鉄平君」(06年)、WEBドラマ「まちのひかり チェーズーベ」(20年)主演:庄司芽生(東京女子流)がある。ドキュメンタリー映画「無音の叫び声」(16年/原村政樹監督)、「おだやかな革命」(17年/渡辺智史監督)、「YUKIGUNI」(18年/同)では撮影を担当。監督作「世界一と言われた映画館」(ナレーション:大杉漣/プロデューサー:高橋卓也)が2019年に全国公開。最新作に、映画「丸八やたら漬 Komian」(2021年/ナレーション:田中麗奈/プロデューサー:同)と、映画「紅花の守人」(2021年/ナレーション:今井美樹/プロデューサー:同)がある。



禍で日常生活や行動範囲が制限されたこと。それが長引いたことで不精になったこと。そして何よりの要因は、この春に末娘が就職で家を離れたため時間を持て余したことだ。

仕事が終わりに帰宅しても休みの日でも何にもすることがない。それで始めたのが草取り。毎日毎日庭に出て、暑い夏場も日焼けしないよう、虫に刺されないよう長袖を着て汗だくなつて草取り。取つても取つても後ろから追いかけるように生えてくる。それでもめげずに毎日励んだ。傍から見たらさぞ珍妙だったろう、「雑草に埋もれている雑草おぼちゃん」だ。少し小綺麗になったスペースに花苗を植えてみた。株が大きくなりたくさんの花を次々と咲かせてくれた。離れて暮らす娘たちにスマホで庭の写真を送ると「きれい」「かわいい」と反応が返ってくるのがうれしくて、また庭いじりに勤しむ。秋にはチューリップやパンジー、ムスカリを植えた。来春に一斉に咲き出す花たちだ。

さて、冬に入るのでしばらく庭いじりはお休み。この間に土壌や花の知識を蓄えておこう。これから白一面に覆われる庭をキャンバスに、花を絵筆にして思い描く。目指すは「かわいいお庭の手入れをしているかわいいおぼちゃん」だ。(川西町)



オペラっておもしろい!!

フィガロの結婚&ドン・ジョヴァンニ

2022年

～モーツァルトの世界へようこそ～

2月6日(日)

全席自由

◆開演 15:00

◆チケット発売中

【料金】一般 1,200 円 (当日 1,400 円)、高校生以下 600 円 (当日 800 円)

【出演】指揮：佐藤 寿一／管弦楽：山形交響楽団／ナレーション：板垣 幸江／

演出：藤野 祐一／キャスト：山形オペラ協会



春待ち・昼下りのステージ 2022

総集編コンサート

2022年

2月19日(土)・20日(日)

【会場】川西町フレンドリープラザ・ホール

【時間】14:00 開演 (13:30 開場) 《入場無料》※出演者等、詳細は決まり次第お知らせします。

「日常に音楽を、の趣旨のもと、気軽に音楽を楽しんでもらいたいという思いからスタート。これまでに14組の演奏者が出演。その総集編として2日間のコンサートを開催します。

白崎映美コンサート《PLA's 会員特別優待》

2022年

3月5日(土)

【会場】川西町フレンドリープラザ・ホール

【時間】18:30 開演

【料金】一般 3,000 円、PLA's 会員 1,000 円、高校生以下 1,000 円

※会員様はお1人2枚まで購入可能 ※詳細は決まり次第お知らせします。



編集講座 “綴り方教室” 【テーマ】①あの人 ②クセ ③音

2022年

3月5日(土)

【講師】小田豊二 氏 (聞書き作家・編集者)

【時間】13:30～15:30

【会場】川西町フレンドリープラザ (2F サークル集会所)

【定員】20名 【受講料】1,000 円 (当日精算)

これらのテーマから1つを選び、市販の400字詰め原稿用紙3枚(1200字)以内でお書きください。パソコンで作成される場合は A4版1枚に印字してください。

◎原稿締切：2月10日(木)まで

子ども演劇2021年度 定期公演「さざわぐち山と仲間の話」

2022年

3月20日(日)

◆開演 14:00 ◆入場無料

3月の定期公演に向けて新たに動き出した川西町フレンドリープラザ附属子ども演劇。新態勢での初の公演を、ぜひご覧ください。

第8回 吉里吉里忌 2022 ふるさと 山形 川西で 井上ひさしを語り継ぐ

2022年

4月10日(日)

全席自由

【時間】13:30～16:00 (開場 12:45)

【料金】1,500円(税込)《18歳以下無料》

◆申込受付：1月19日(水)から

講演：井上ひさしの『一週間』～劇作の中での井上ひさしと私～

渡辺えり(劇作家・演出家・俳優・歌手)

◎オープニングアクト：井上ひさし作品『あくる朝の蟬』朗読/出演：川西町フレンドリープラザ附属朗読倶楽部「星座」



編集後記

川西町フレンドリープラザに勤めて3年が過ぎようとしている今日この頃。今回の巻頭特集「知っているようで、本当は知らない図書館の世界」の原稿を読み、いかに図書館について知らないことが多かったかを思い知らされた3年目の春です…。こんな便利なサービスがあるのか!と目からうろこ状態でした。普段、目の前の仕事にてんやわんやで聞き流していた事柄のなんと多いことか…。今回の特集を機に、もっと司書たちにいるんことを聞いてみたいと思いました。そして利用者にも、図書館初心者ならではの視点で、さまざまな情報をわかりやすく発信していきたいです!(仁科)

